



雨よけハウスでの根域制限栽培に適したラズベリー品種

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

富山県

1. 背景とねらい

本県では近年、外食産業から県産ラズベリーの生産供給が求められ、主経営体等で新たに栽培に取り組む事例が増えており、今後も生産拡大が見込まれている。しかし、ラズベリーは、本県での栽培実績が乏しく、品種の選定、栽培技術の確立が急務となっている。

そこで、外食産業で需要の高い赤ラズベリーについて、収量性、収穫時期を中心に雨よけハウスでの根域制限栽培に適した品種を選定した。



2. 成果の内容

- 正常果の収量、小核果の接着度、食味、実需者の評価等から、雨よけ根域制限栽培に適する品種は、1季成り性品種では「スキーナトップ」および「グレンアンプル」、2季成り性品種では「ヒンボートップ」である。



図1 果実の外観
左:スキーナトップ、中:グレンアンプル、右:ヒンボートップ

表1 ハウス内土のう袋栽培ラズベリーの品種概要(2013年、2014年)

季成り性	品種 ^z	結果母枝		収穫期						収量(g/樹)		
		樹勢	発芽率(%)	夏果			秋果 ^y			計	夏果	秋果
				始期	盛期	終期	始期	盛期	終期			
1季	スキーナトップ	や強	82.8	6/11	6/21	7/7				633	633	
	グレンモイ	弱	64.1	6/14	6/21	7/15				419	419	
	キャンバイ	中	63.7	6/11	6/23	7/7				607	607	
	ラザム	中	73.6	6/16	6/25	7/14				517	517	
	レオン	強	76.0	6/20	6/27	7/17				724	724	
	グレンアンプル	中	66.4	6/11	6/30	7/22				541	541	
2季	ジョンスクエア	弱	87.1	6/6	6/17	7/9	7/29	-	11/25	527	357	170
	インディアンサマー	中	82.6	6/9	6/18	7/11	8/24	-	11/26	965	697	267
	レッドジュエル	中	88.3	6/13	6/19	7/15	9/22	-	11/25	449	384	65
	サマーフェスティバル	中	87.2	6/14	6/21	7/20	9/2	-	11/25	641	514	127
	オーダンピリス	や弱	71.7	6/4	6/22	7/16	7/11	-	11/26	655	273	381
	ハリテージ	中	83.5	6/11	6/23	7/11	7/26	-	11/26	824	450	374
	ヒンボートップ	中	80.5	6/6	6/24	7/14	7/18	-	11/26	939	500	439

表1 続き

季成り性	品種 ^z	正常果 収量(g/樹)			商品化率 ^x (%)		1果重 (g)	香り	着色 むらの発生	小核果 の接着度	食味	総合 評価 ^w
		夏果	秋果	計	夏果	秋果						
1季	スキーナトップ	361		361	57.0		2.4	多	易	強	良	良
	グレンモイ	297		297	70.9		2.7	少	難	強	良	やや不良
	キャンバイ	291		291	47.9		2.8	少	難	強	良	やや不良
	ラザム	254		254	49.1		2.2	少	難	強	不良	やや不良
	レオン	451		451	62.3		2.1	少	難	強	不良	やや良
	グレンアンプル	402		402	74.3		3.7	多	難	強	良	良
2季	ジョンスクエア	309	102	411	86.6	59.7	2.8	少	難	強	良	やや不良
	インディアンサマー	436	100	536	62.5	37.5	2.2	多	易	弱	良	中
	レッドジュエル	292	33	324	75.9	50.8	2.0	少	難	弱	良	やや不良
	サマーフェスティバル	416	59	475	80.9	46.3	2.2	少	易	弱	良	中
	オーダンピリス	202	211	413	73.8	55.3	2.8	少	難	強	中	中
	ハリテージ	258	219	477	57.3	58.5	2.1	少	難	強	中	やや良
	ヒンボートップ	368	264	632	73.7	60.1	2.8	多	難	強	良	良

z: 「グレンモイ」、「キャンバイ」、「ラザム」、「ジョンスクエア」、「サマーフェスティバル」、「ハリテージ(夏果)」、「レッドジュエル」は1か年データ。

y: 盛期はピークがみられないため未定、終期は越冬準備のため屋根ビニールを外し試験を終了した日。

x: 奇形果、食害果、ドリップ果を除いた正常果の割合。

w: 収穫時期および生育、収量性、果実品質の評価等をもとに、不良、やや不良、中、やや良、良の5段階で総合的に評価。

3. 成果の活用

生産者の経営に適したラズベリーの品種選定に活用できる。

